首都圏段戸会会報

平成30年9月
第42号

発行責任者
首都圏段戸会
会長
村木央明

編集者
広報担当
織田利彦

# 会長挨拶

首都圏段戸会会長
村木　央明（高19回）

この1年は、「まだ先のことだろう。」と思っていたことが、身近に迫ってきたことを感じることの多かった1年だった。

日本ではあまり話題にならない地球温暖化対策の影響が広がってきた。電気自動車等の新エネルギー車へのシフトの動きが、色々な国に広がり、普及比率アップや達成目標年の前倒し等が進んでいる。また、原発停止対策として国内で多数計画された石炭火力発電所の新増設投資の中止の動きも広がってきた。

少子高齢化の影響も、団塊世代の引退に景気回復も重なり、人手不足問題を色々な分野に生起させてきた。

トランプ大統領が登場した時に一番心配していた保護貿易政策も、とうとう今年の春頃から動き出し、7月には世界の二大経済大国の米中が真正面からぶつかり合う深刻な貿易摩擦の様相を呈し、最悪な状況となってきた。

いつの時代にも大きな環境変化はあったのかもしれないが、それぞれの立場で、夫々の課題に的確に対応していくことは、これからも求められる。

そんな時、思い出すのは、岡高入学時に、「君たちを大人として扱う」という先生方の言葉である。あの時は、他人に注意される前に、「自分の頭で考えて、事の善悪を自分で判断し、自分を律するように」とのメッセージかと思った。何れにしても、自主性・自律性の大切さを16歳の時に考えさせてくれた先生方に感謝をしたい。

ただ、どんな課題も、先ず変化の中味を正確に理解・分析し、問題の本質を見極めることが肝要かと思う。そんな時に色々なことをフランクに話したり、聞いたりできる総会・懇親会は、とても魅力的な場である。「最近はどうしてる?」「どんなお仕事をされてるの?」等々何気ない語らいの中から、新たな真実を知ったり、疑問や誤解が解消したりと、日常生活にはない刺激や充実感を感じられる場である。また、初めて出席する人も、このような話の輪の中にたちまち溶け込める、不思議な場でもあるので、是非一度顔を出して頂きたい。

今年も、世話人の皆さんが、ボランティア精神を発揮して、会員の皆さんに楽しんで頂ける総会・懇親会を目指して、着々と準備を進めている。

最後にお願いですが、皆さんの中で世話人に関心がある方は、是非手を挙げて下さい。

世話人会は、年に4回開催（4、7、9、11月）され、多士済々なメンバーが、卒業年次の壁を感じることなく、自由に話し合える場で、終了後に、希望者で異業種交流会的な雰囲気が楽しめる懇親会も開かれます。

## 「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。

公式ホームページ

http://dandokai.o.oo7.jp/

首都圏段戸会　検索

パソコンやスマートホンが不得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねてみて下さい

## 段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています！

**“段戸囲碁会”**
（幹事：藤田 訓弘　高13回）kfujita@muc.biglobe.ne.jp

**“段戸音楽会”**
（幹事：石川 航己　高58回）koki.ishikawa.49@gmail.com

**“段戸句会”**
（幹事：野村 親信　高16回）nomurac@jcom.home.ne.jp
＊本号6ページに活動報告が掲載されています。

**“段戸山の会”**
（幹事：満江 信之　高15回）nmitsue@ae.auone-net.jp

**“胃文化交流会”**
（幹事：都築 正行　高19回）masa_tsuzuki2000@yahoo.co.jp

# 第46回首都圏段戸会総会・懇親会のご案内

●日　　時　平成30年10月27日（土）13：00～16：40

●場　　所　アルカディア市ヶ谷（私学会館）（右地図参照）
千代田区九段下北4-2-25（TEL　03-3261-9921）
JR市ヶ谷駅から徒歩2分
地下鉄市ヶ谷駅（有楽町線、南北線、新宿線）
から徒歩2分

●講　演　会　タイトル：都市における木材利用の拡大に向けて
講　　師：沖　修司　（高27回）　　前林野庁長官

森林・林業の現状と課題を整理し、成長産業化に向けた施策について世界の潮流も含め紹介します。また、都市部における木材利用の在り方や今後導入が予定される森林環境税・譲与税（仮称）についても言及します。

（略歴）

昭和50年3月　愛知県立岡崎高等学校卒業
昭和54年3月　名古屋大学農学部林学科卒業
同　年　4月　農林省（現農林水産省）入省
平成29年7月　林野庁長官
平成30年7月　林野庁退官

**総会・懇親会に**
**お早めにお越しください**

総会・懇親会の受付は次の通り行われます。
（時間）　12：30～15：30
（場所）　最初は、「3階のエレベーター・ホール横」
その後、頃合いを見計らって、「総会・懇親会の会場入口」に移動

受付の仕事は、世話人が分担して行っているのですが、受付担当の人達も、会員の皆さん同様に講演会や懇親会を楽しみしています。
このような事情をご賢察の上、できるだけ早い時間に（できれば13：30頃までに）受付をお済ませ頂けると助かります。
会員の皆様のご理解・ご協力を宜しくお願いします。

●会　　費　男　性　8,000円　　女　性　6,000円
ただし、以下の会員には特別割引があります。

| | |
|---|---|
| 古稀を過ぎた会員（高18回以前） | 5,000円 |
| 若手会員（高56回以降） | 5,000円 |
| 学生会員（高56回以降の大学、大学院、専門学校等の学生） | 1,000円 |

●ご　招　待　古稀年次（高19回）の方は、ご招待申し上げます。（会費無料）

●招聘恩師（予定：敬称略）

鈴木　陸男（英語）　尾崎　誠司（化学）　大島　一嗣（数学）

# 人生キャリアアップ
## ー海外での研究活動ー

高52回　林　洋平

学問が好きで、大学院の博士課程に入ったのはいいのですが、研究を進めるうちに「こんなつまらない研究をしていて何になるのだろう?」「もっと社会の役に立つことをやるべきではないのか?」と考えるようになってきました。そこで、当初は研究とはあまり関係のない一般的な企業への就職活動などをしていました。そのままいっていたら今頃はビジネスマンをしていたかもしれません。けれども、やはり研究への思いがふつふつと沸き上がり、「何も成し遂げていない現況から逃げるのは卑怯だ。とことんやってから辞めればいいじゃないか。」という思いに変わり、やはり博士課程後も研究を続けることにしました。

ちょうどその当時、山中伸弥先生がiPS細胞の開発に成功したことを学会で報告していました。これを聞いた私は「この内容であれば、自分のこれまでの学問知識・技術を生かしながら、より社会に役立つ研究ができるのではないか」という気になりました。そこで、直接山中先生に連絡し、面談をしていただきました。事前に調べたところ、山中先生が京大以外のアメリカにもう一つ研究室を立ち上げた、ということを知り、これは英語も話せるようになって好都合と考えました。そこで、「関西弁がしゃべれないと、京都ではいじめられそうなので、アメリカの研究室に行ってもいいですか?」「何でやねん。まあええわ。」といった感じで、アメリカの山中研で研究することができました。

サンフランシスコにあるグラッドストーン研究所の山中研究室は、博士号を持っている研究員が4人ほどと研究補助員（テクニシャン）のみのこじんまりとした山中先生の隠れ家のような場所です。山中先生は月に1回ほど訪問し、研究室メンバーとの個人面談と進捗状況を報告する研究室全体でのミーティングを行いました。私たちは普段、そのミーティングに向けて、せっせと実験を頑張る日々を送るわけです。所内では、英語を母国語としない研究者向けの英会話教室、英語論文のライティングのクラス、英語でのプレゼンテーションのクラス、リーダーシップのクラスなどが随時開催され、自分の実験技術だけではなく、トータルとしての研究者能力が飛躍的に向上しました。私は6年間という長い研究留学期間のなかで、研究環境と研究成果に恵まれ、意気揚々と帰国しました。

山中先生ノーベル賞受賞後の研究室でのパーティー
（左端が筆者）

日本に帰国後は、まずはバイオベンチャー企業に勤め、その後大学医学部の助教として勤務していました。今年の4月からは、国立研究開発法人理化学研究所（つくば事業所）バイオリソース研究センターというところで、チームリーダーとして自分の研究室を運営しています。現在、4カ国出身のスタッフ・留学生を率いて、研究室を立ち上げている最中です。様々な難病患者さんから作られたiPS細胞を用いて、難病の解明や薬の開発に貢献できるよう、これからも研究に邁進します。

❖

高54回　安藤　康伸

国立研究開発法人 産業技術総合研究所で研究員として日々、物理学の知見をもとに計算機シミュレーションを用いた材料科学の研究・開発を行っています。近年では日々注目を集めている人工知能技術を如何に最先端科学の現場に導入し、実験やデータ解析などの研究活動の側面で役立てることができるかどうかを検討しています。

私が勤める研究所では年に数名、海外フェローシップ制度という名で職員の海外派遣を行っています。派遣の目的は、海外の研究機関・研究者との共同研究を実施し、人脈を形成して国際共同研究を促進することです。私は幸運にもこの制度を利用することができ、半年間ベルリンにあるフリッツ・ハーバー研究所に滞在することができました。フリッツ・ハーバー研究所は100年以上の歴史をもつ古い研究所で、触媒化学・表面科学といった分野の研究が盛んです。また理論化学部門も進んでおり、欧州連合主体のNOMADという材料データベース・材料シミュレーションとデータサイエンスに関する大型プロジェクトを運営しています。このプロジェクトと私の研究テーマが非常に近く、内部の研究者と連携をとり、ベルリンで新たな研究をスタートさせています。

ベルリンの冬は大変厳しく、滞在を開始した2018年1月から暫くはただ生活を営むことで精一杯でした。やはり生活以外に意識を割けるまでに3ヶ月程度かかる、ということを身をもって経験しました。一方で、春から夏にかけては大変過ごしやすく、野菜も豊富で美味しいです。また、首都であるにもかかわらず宿舎を構えていた郊外は自然豊かでWanse湖という巨大な湖まで15分程度。加えて歌劇、オーケストラなどの文化面も身近です。またベルリンは近年スタートアップ企業の聖地としても有名です。最先端科学・技術と文化や自然が集合した非常に魅力的な都市でした。

海外経験は人生の尺度を大きく変えます。ですので機会に恵まれた方には、臆せず飛び込むことを勧めたいです。

滞在先の研究所

## 世話人リレーエッセイ
### ー情報担当ー

高34回　板谷　敏正

皆さんこんにちは。情報担当の板谷です。ご存知の様に情報担当は首都圏段戸会ホームページの企画・運営を担当しています。高校の有志同好会としてはダントツに充実したホームページを開設し、当会の最新情報や会員の皆様から寄せられた近況情報を発信しています。総会・懇親会や段戸フォーラムなど首都圏段戸会主催の最新情報の掲載も欠かせませんが、芸術関係の皆様からはコンサートや発表会、各段戸サークルからは会合やイベントの情報が寄せられ最新情報として掲載されています。俳句の会の季節ごとのＷｅｂ“段戸句会”も楽しみですね。

右端が筆者

さらに特筆すべきことは段戸会への会員登録や修正がホームページの画面で簡易にできる点だと考えています。高校を卒業して上京した若手もぞくぞくと入会できる仕組みは、当会の会員増加の一助になっていると自負しています。

情報担当は現在５名（福山（高19回）、板谷（高34回）、筒井（高45回）、鳥居（高50回）、清水（高52回））。日常は集まることはできないので、ネット上で協力して作業をすすめています。場合によっては移動中の新幹線や海外出張先からも遠隔で更新作業をするなど、常に新鮮な情報が迅速に掲載されるように努力しています。主な役割分担は、福山さんと鳥居さんが日常の最新情報更新を、筒井さんと清水さんがそれぞれＩＴ企業勤務の経験を活かして全体のセキュリティ対策やデータベース管理を遂行しています。筆者は飲み会の幹事といったところです。いつも思うのは、顔を合わせない５人ですが、まるでサッカーのパスワークの様に連絡が行きわたり、最後は福山さんか鳥居さんがシュート、こぼれ玉を清水さんと筒井さんが押し込む、といった感じです。また普段ネット上でコミュニケーションしている５名ではありますが、たまには集まろう！という号令がかかった時には集中力も強大で、こちらはラグビーのモールの様にどこからともなく素早く集合します。今回も東京駅近くの中華店に集合。それぞれの近況や趣味、あるいは大量の個人情報（もちろん本人の）をすべてさらけ出し大いに気炎をあげました。写真はその様子です。皆さんこれからもよろしくお願いします。ではカンパーイ！

## 第24回段戸フォーラム報告

高38回　中西　和幸

久しぶりの段戸フォーラムは、講師に建築家の吉村靖孝さん（高43回）をお招きして開催されました。現在、早稲田大学理工学術院教授・創造理工学部建築学科教授であり、第２回（２０１８年）日本建築設計学会賞大賞を受賞されるなど、日本でも有数の建築家です。

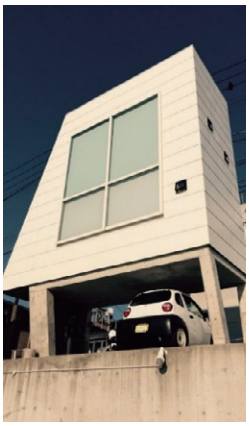
お話は、オランダにあるＭＶＲＤＶという水滸伝の梁山泊のような組織のご紹介といった前菜から、メインディッシュの実際に設計された建物にまつわるエトセトラを、建物の写真付きでうかがいました。その写真は、吉村さんの視点で撮影されたもので、他ではなかなか見られないものでした。

多くの時間を割いた「窓の家」については、施主様のご要望にいかに吉村さんが応えるか、頭の使いどころや腕の見せ所、どういったツールどう使えば要望に応えることができるかどうか、感服することばかりでした。海辺にある家だから景色を楽しみたい、土地に広さがないからどうしよう、窓を広くしたら日照は…等々、今では思い出せない色々な条件をクリアして、この建物になったそうです。もっとも、この建物の後日談は残念そうでしたが…（気になる方は、いらっしゃるかな。）。この建物は、両面に窓があって、全ての窓のカーテンやブラインドを開放すると、自宅から勿論、後ろの建物からも海が見えるそうです。もっとも、私は、夏は暑そうだなあ、冷暖房費は大丈夫だろうか、他人の目が気になるとブラインドは閉め続けるのかな、などなど、講演中に個人的に余計な心配をしてしまいましたが…。その他の建物についてもお話しいただきましたが、こちらが一番インパクトがありました。

講演される吉村さん

さて、恒例の質問コーナーですが、私からは、自由な度合いの高い建物と、制約の厳しい建物の、どちらにやりがいを感じるか、という質問に、制約の厳しい建物の方との回答を頂きました。なるほど、この「窓の家」を拝見すると、また、設計のエピソードを聞くと、納得です。首都圏段戸会にも、山やハードルが高ければ高いほど燃える方、いらっしゃいませんか？

最後に吉村さんの実績のご紹介です。ここでは全てを掲載できませんが、株式会社吉村靖孝建築設計事務所のウェブサイト（https://www.yasutakayoshimura.com/）上のギャラリーで見ることができます。皆さん、一度ご覧になって下さい。


窓の家

## 私のいた頃の岡高
### ー忘れられぬ悲劇ー

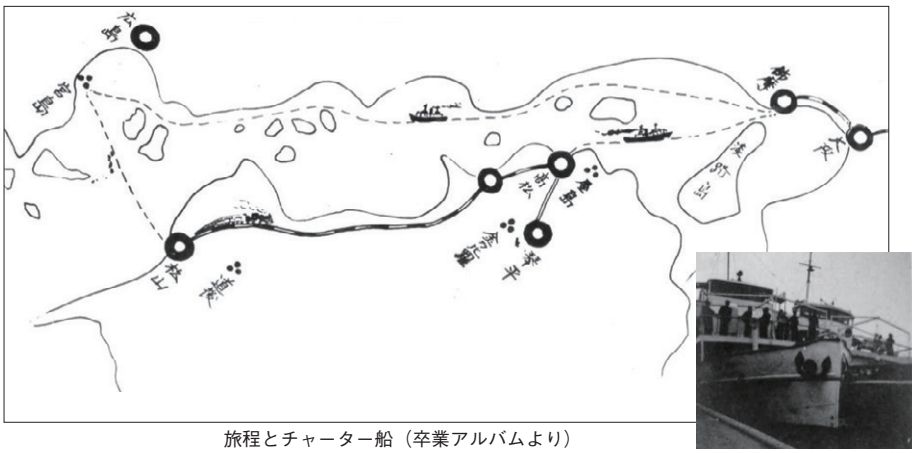
高8回　杉浦　嘉久

1955年5月、我々3年生400名は瀬戸内を巡る修学旅行に出発しました。旅程は、国鉄（現JR）で姫路の外港（飾磨）へ、チャーター船で大三島、宮島、広島を巡って松山で下船、道後泊の後、予讃線で高松に移動。琴平で泊まって最終日は国鉄宇高連絡船（玉野市宇野と高松間を結ぶ鉄道フェリー。瀬戸大橋が出来て廃止された）を使って帰途に就く計画でした。ところが飾磨港で大変な事が起きました。チャーター船と宇高連絡船の予約が取れていなかったのです。先生方は港に生徒たちを残して駆けずり回り、薄暗くなった頃、やっと大きな漁船風の船が2艘来て、全員その船に分乗して旅を続けることができました。以後、高松までは平穏な旅でした。

琴平の宿では隣の大部屋に修学旅行中の小学生の団体が宿泊していました。我々も経験がありますが、小学生の騒ぐことさわぐこと。相撲・レスリング・枕投げ等々…。さすがに我々も「ウルサイ！」（翌日、この子たちに降りかかる悲劇など考えもしないで…。）

翌5月11日、早朝の高松港は深い霧に包まれていました。港には本来なら我々が乗船する筈であった宇高連絡船「紫雲丸」の雄姿が濃霧のなかボーと見えました。我々は午前6時10分頃にチャーター船で濃霧の中を出帆して飾磨へ無事到着しました。一方小学生団体など乗客781人を乗せた紫雲丸も濃霧の中6時40分頃に出発しました。運命の出発でした。出航16分後、最悪の事故が起こりました。貨車18両を満載した国鉄の貨物専用船第三宇高丸が紫雲丸の右舷後部に70度の角度で突っ込み、紫雲丸は沈没。昨夜同宿した小学生100名を含め168名が犠牲になりました。

岡崎に帰着して見た中日新聞の夕刊一面には「岡高生遭難」のタイトルで誤報が載っていました。琴平の宿で「もう遅いから寝なさい」と注意した子の顔は未だに私の脳裏にあります。




旅程とチャーター船（卒業アルバムより）

## シニアきらり
### ー第三の空間への挑戦ー

高20回　辻村　貴典

建築設計や街づくり・都市開発の仕事をいったんは60歳で定年、その後は1年ごとの契約で同じ仕事を続けています。定年の定義と時期は自分で決めるもの、人生の定年はまだまだと思っています。

今までの人脈がリセットされるのではなく、個々の繋がりは今まで以上に強くなり、新たな人々との出会いのドラマが増える日々を実感しています。それは、会社や組織に属していた時代でも常に自分の座標軸を維持し、考えの相異があっても提案する事と他を理解する事を基本としていた背景があったからだと思います。

70歳が目前となった今、時間と空間を能動的に使うことが楽しいという生き方を実践していきたい。もっと時間がほしい、もっと動き回りたいという欲求はあるが、足腰の衰えを痛感する昨今の自分に気力と体力がうまくシンクロしていないものの、会社や家庭という空間から第三の空間への探求を目指しています。

その一例としては、都内の大学の研究所で異業種の現役や定年キャリアが集まり、多様性を前提に自分たちでテーマを設定して共同で研究する組織です。フラットでオンテーマによるコラボレーション、異なった経験を活かしたシニアディベートであり、その後の飲み会も組織が交歓する基本であります。テーマにより学生と共同研究する事も可能で経験実学を教えることで若い世代への貢献となります。

また、コンサルタントとして地域の活性化、団地の活性化にも取り組んでいます。少子化、高齢化での団地再生、マンション再生、暮らしの再生が喫緊のテーマと考えています。その地域には固有の歴史と環境があり、まさに人々の暮らしの物語があります。そこには、私が以前から目指していた「フォトポエム」に繋がるものがあります。「風景＋物語」を写真と詩でコラージュするもので、その風景での暮らしの物語、生きることの感動、自然との出会いを画像化し「人生の想い出となる風景づくり、感動づくり」を団地再生や街づくりのテーマとして、シニア時代となった今でも取り組んでいきたい。

研究所仲間と学生達（左端が筆者）

# 段戸句会　活動報告

高40回　大田　武

段戸句会は2004年に首都圏段戸会のサークルとして発足した会です。主な活動として、インターネットを使った句会を隔月で開催しております。インターネット句会の手順はシンプルで、誰でも簡単に参加できます。会員は事前に示される兼題（季語）に沿って、奇数月末迄に自作5句を段戸句会webページに投句します。その後、幹事から、全員の全作品から成る匿名俳句リストが、メール配信されます。

まずは、会員同士で句を選び合う互選となります。会員はリストから、特選3句、入選5句（勿論、自分の句以外で）を選び、コメントを付して他の会員全員に向けてメールを発信します。そこに自分の句があれば、一日を良い気分で過ごせます。はたまた、誰にも選んで貰えない時は、それなりに落ち込みますが、直ぐに気を取り直すことが肝要です。

つづいて、同窓の平田冬か（高14回、旧姓仙波環）先生による選句と講評です。先生は高浜虚子直系の俳句結社「かつらぎ」の副主宰を務めておられ、NHK俳句の選者としてもご活躍中です。お忙しい身ながら、岡高卒業生として、サークル活動の趣旨をご理解いただくとともに、結社を問わない広い視野からの丁寧なご指導をいただいています。先生はまず、特選3句を選ばれます。さらに、その他入選句として複数の句を広く選ばれます。その際、一句一句に丁寧な講評と、場合により添削をして下さいます。先生の指導は、常に理にかなったもので、初心者の私にも理解し易く、大変勉強になります。

兼題を前に、皆様の句の仕上がりはどれも素晴らしく、毎回なるほどと感心することしきりです。字数制限と季語、季語は兼題に限るとなれば、俳句を作るというのは、なかなか大変です。日常の中にある季語もあれば、あまり関わることのない季語もあります。なければ、どこかに探しに行こうと言う気にもなります。

季語を探して、心と体を遊ばせることは、まだまだ現役で忙しい日常を送っている私にとって貴重な時間です。これからも段戸句会を通じて俳句の世界に親しみ、俳句の世界を楽しもうと考えています。ご興味のある方は、段戸句会で一緒に俳句を楽しみませんか？皆様の参加を是非お待ちしております。

一点の紅に表情紙ひひな　　平田冬か先生

園丁はさながらしもべ薔薇手入　　〃

聖母像ひときは白し花ミモザ　　〃

＊　＊　＊　　（　　）内本名と卒業回

磯宮の笛吹く鳶や雛送り　　宮崎勉（高16回）

独り身や語りかけたき春の星　　市川毅（高7回）

ぎごちなく名刺交換新社員　　深谷美智子（高17回）

春近し天地返しの土香る　　鈴木康允（高13回）

婦人服売り場明るく春近し　　本多悠天（正之、高13回）

包丁を研ぎに出したり暮れ初め　　杉原洋馬（洋、高13回）

名月や吾も影引くもののうち　　大田武（高40回）

投函を遠回りして月の道　　山崎圭子（高10回）

押しのけて押しのけ花火次々と　　鈴木寛（高17回）

炬火の帯うねりなだるる山開　　野村親信（高16回）

大空を占領したる辛夷かな　　中島彩（綾子、高14回）

今朝もまだ蕾のままの冬薔薇　　鈴木六花（弘恵、高16回）

妻放り夫が掛けゆく稲架（いなか）かな　　小森葆子（高13回）

父の日を以て酒量を控へけり　　鈴の木正紘（鈴木、高15回）

恋猫の喧嘩のはげし夜もすがら　　山田敏（高10回）

ここ尾州雪の御嶽遠拝み　　宮田望月（恵美子、高13回）

吾が窓に春星一つ名を知らず　　新井康夫（高13回）

## 編集後記

昨今、定年後の再就職、再雇用はもはや当たり前のように受け止められております。小生のまわりでも現役時代と相変わらず、元気に仕事をされている方を見かけます。今回は定年以降もご活躍中の諸先輩の姿を紹介したいと考え、「シニアきらり」を企画させていただきました。早速、辻村さんから寄稿いただきました。長年、積み重ねてきた経験を下敷きに、建築家としての思いと夢がひしひしと伝わってきます。一方、これから新たな道を切り開こうとされている若い方を対象に、「海外での研究活動」をテーマに取り上げ、二人の方に貴重な経験を語っていただきました。海外経験を転機として人生がどう変っていくか、こうした記事がお役に立てば幸いです。また、岡高在学当時の出来事を綴る「私のいた頃の岡高」では、１９５５年、修学旅行中に起きた悲劇「紫雲丸事故」について、杉浦さんに60年以上前の記憶をたどって執筆いただきました。瀬戸大橋はこうした痛ましい惨事を背景に架けられたと思うと心が痛みます。なお、今回で2回目となる世話人リレーエッセイは情報担当の板谷さんから発信いただきました。そのなかでボスとして君臨されている福山さんは今年で古稀を迎えますが、大学、学会活動はもとより、首都圏段戸会総会で写真撮影をされるなど、元気一杯なシニアです。

（織田）

# 運営協力金のお願い

平素から首都圏段戸会の活動にご理解、ご協力頂きまして、誠にありがとうございます。

首都圏段戸会は、回を重ね本年第46回総会を迎えることになりました。前回総会では、高2・中51回から高68回の皆さん約210名にご参加頂きました。これもひとえに会員の皆様の温かいご支援の賜物と、心より感謝しております。

本会の特徴は、岡崎高校の長い歴史を活かし、首都圏在住の大学生、現役社会人、さらに退職者と幅広い年次の会員が集まり、総会に加え、各種イベントの開催やサークル活動を行っていることです。

たとえば、現役岡高生との交流を目指したイベント「オープンキャンパス」では、学生会員の大学生が主体となって、大学、研究室の見学、先輩の大学生・教員との懇談などを行っています。岡高生には単なる受験対象として捉えていた大学で、「何をしたいか？」について考える機会を得られたと好評です。

また、学界、官界、産業界、法曹界、政界など各分野で活躍されている会員を講師に招いた「段戸フォーラム」、さらに音楽、俳句、山登り、囲碁、食の同好の集まり「段戸サークル」があります。いずれも幅広い会員の交流の場となっています。

また、こうした活動は、年2回（春・秋）発行する「会報」、最新ニュースは「ホームページ」を通して、皆さんへお伝えしています。

このような諸活動は、各年次から選ばれた80名ほどの「世話人のボランティア」と、会員の皆様から頂く「運営協力金」のご支援とによって支えられています。

これからも、人間的な手作りの感触を大切にし、同窓の皆さんが安心して集まれるよう、会の運営に努めてゆく所存であります。つきましては、首都圏段戸会の諸活動を益々充実したものするため、これまで以上に幅広く、多くの会員の皆様から運営協力金のご支援を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔運営協力金の主な使途〕
会報の印刷・郵送費用、世話人会費用、ホームページ運営費用、オープンキャンパス費用　等

## 平成30年 首都圏段戸会 世話人名簿

| | | |
|---|---|---|
| (高2回) | 服部　登 | |
| (高3回) | 丹羽　鼎 | |
| (高6回) | 有馬　弘政 | |
| (高7回) | 是津　定利 | |
| (高8回) | 杉浦　嘉久 | |
| | 田中　厚生 | 広報 |
| (高9回) | 岡田　敏夫 | |
| (高10回) | 宇佐美忠利 | |
| (高11回) | 太田　栄之 | |
| | 永田　宏 | |
| (高12回) | 鶴田　文男 | |
| | 成瀬　徹 | |
| (高13回) | 中　浩之 | |
| (高14回) | 磯尾　進 | |
| | 水谷　鏡子 | |
| (高15回) | 神谷　国広 | |
| | 満江　信之 | |
| (高16回) | 横井　昭親 | |
| (高17回) | 伊與田正彦 | |
| | 山田　博子 | |
| (高18回) | 伊藤　博邦 | |
| | 音部　昌宏 | |
| | 清水　久雄 | |
| | 山内　恵 | |
| (高19回) | 都築　正行 | |
| | 福山　透 | 情報 |
| | 村木　央明 | 会長・広報 |
| (高20回) | 天野隆太郎 | 企画 |
| | 辻村　貴典 | 会計監査 |
| (高21回) | 小栗　恵子 | |
| | 山田　俊文 | |
| (高22回) | 上田　洋子 | 副会長・書記 |
| | 中村　賢治 | |
| (高23回) | 野々山　浩 | 会計 |
| (高25回) | 戸田　譲三 | 会計監査 |
| (高26回) | 織田　利彦 | 事務局長・企画・広報 |
| (高27回) | 長田　光雄 | 会計 |
| | 岸　洋平 | 会計 |
| | 山崎　正枝 | |
| (高28回) | 酒井　邦彦 | |
| (高30回) | 米津　智徳 | |
| (高31回) | 石田　満理 | |
| | 岩間　由紀 | |
| | 高原　正之 | 企画 |
| (高33回) | 小出　一典 | 企画 |
| | 鈴木　祐子 | |
| (高34回) | 板谷　敏正 | 副事務局長・企画・情報 |
| | 井上由美子 | 副事務局長・企画 |
| (高35回) | 糸井真由美 | |
| | 小川　美季 | 広報 |
| | 菅　伸介 | 会員 |
| (高36回) | 平松　理生 | |
| (高38回) | 中西　和幸 | 企画 |
| (高40回) | 大田　武 | 会計 |
| (高41回) | 中鉢　朋子 | 書記 |
| (高42回) | 長野　麻子 | 広報 |
| (高44回) | 松尾　直樹 | 企画 |
| (高45回) | 筒井　貴之 | 情報 |
| | 西浦　瑞恵 | |
| (高46回) | 朝岡　大輔 | |
| | 大川　博 | 広報 |
| (高47回) | 杉本いづみ | 会員 |
| (高50回) | 鳥居　福代 | 情報 |
| (高52回) | 清水　雄太 | 情報 |
| | 近藤　佳子 | 広報 |
| (高53回) | 石井　貴大 | |
| | 辻内　直子 | |
| (高54回) | 安藤　康伸 | |
| | 岡田　尚博 | |
| | 加藤　直也 | 広報 |
| (高57回) | 川口　敦子 | |
| (高58回) | 石川　航己 | 企画 |
| (高59回) | 嶋田　亘 | |
| | 等　若菜 | |
| (高60回) | 本多健太郎 | |
| (高61回) | 鈴木　貴之 | |
| | 中原　槙子 | |
| (高62回) | 粟津　文香 | |
| (高63回) | 吉兼　峻史 | |

# 平成29年度運営協力金協力者芳名

賛助法人　スターツコーポレーション株式会社
田辺総合法律事務所
税理士法人みらいパートナーズ
岡崎信用金庫

(岡高同窓会会長)　細井土夫
(中49回)　村松義定
(高1・中50回)　陶山祐司　中川恵照
水野尚　中山本治
(高2・中51回)　青山敦夫　石川耕春
今井敏夫　佐藤重樹
志賀茂　武田弘之
常澤秀夫　名城政次郎
服部登　三井正次
(高3・併23回)　阿部恭道　市川龍夫
伊藤芳枝　宇津野隼千
小野好史　加藤正義
鏑木道子　木村博
久保雅之　後藤三千代
高木次男　丹羽鼎
蜂須賀芳昭　松井淳子
柳澤玖枝　米津勇美
(高4・併24回)　金田せつ子
(高5回)　奥出由恵　杉浦正健
平野右
(高6回)　有馬弘政　志賀純子
杉浦福夫　高橋弘江
鳥山卓司　長瀬けい子
(高7回)　市川毅　大林通浩
近藤衛　斎藤悦子
杉山修　是津定利
永田綾子　羽谷允
吹抜敬彦　三井豊美
森周子
(高8回)　小野勝巳　杉浦嘉久
高橋道人　田中厚生
外村仁
(高9回)　石原軍　岡田敏夫
片野英司　金井豊子
香村時良　小山孝子
高木治子　林宏子
坂郁子
(高10回)　安藤哲生　安藤登
市川節子　宇佐美忠利
太田信朗　杉浦博子
鈴木靖子　藤井哲
藤墳成幸　藤田鮎子
本目富男　山川肇爾
山田敏　山本馨
山本眞司
(高11回)　青木かゑ子　阿部泰子
市川晃三　梅村豊子
太田栄之　幸村初彦
永田宏　中根淳
服部豊治　本多慶成
水野義之　村田正雄
山崎宣典
(高12回)　稲垣早苗　岩月一詞
大林房子　神谷信行
菅野則彦　後藤孝子
近藤祥子　杉浦宏明
杉浦満智子　田中眞喜子
堤三郎　鶴田尚弘
鶴田文男　内藤雅彦
永井克彦　成瀬徹
服部欣也　星野陽一
(高13回)　新井康夫　小森葆子
柴田重徳　神道千秋
杉浦忠仁　杉原洋
鈴木功一　田淵雅也
堤幸　中浩之
中山直　新実昭治
原田忠　平野源吾
藤田訓弘　本多正之
眞木宏哉
(高14回)　阿部完二　天野彰
石河輝道　磯尾進
磯村澄江　伊奈郊二
岩垂秀一　太田眞澄
織田博司　笠原紘
金澤忠幸　粂田輝義
都築英子　長井佐紀子
中島綾子　中野元雄
成瀬勝彦　橋本雅子
水谷鏡子
(高15回)　雨宮誉夫　鶴田瑞枝
長坂修　本庄真之
本多健　満江信之
(高16回)　大口康子　大山達雄
木村隆義　鈴木貞雄
鈴木勢津子　鈴木多恵子
鈴木弘恵　野田善弘
野村親信　牧野里美
丸山和紀子　早稲田嘉夫
渡邉雅利
(高17回)　安藤智美　伊与田正彦
太田憲三　大野泰熙
河津邦雄　近藤康男
佐伯寛子　竹嶋栄子
中尾幸男　中野房子
春名正彦　武藤隆子
山田博子
(高18回)　新井史子　伊藤博邦
大見良裕　小野義比古
佐口正司　清水久雄
杉山孝博　高橋成宜
竹内義人　幡本裕
牧野友厚　柵木孝一
森本哲男　山内恵
山本俊彦
(高19回)　岩瀬正紀　上川雅美
近藤陽一　竹内広道
都築正行　野澤信一
則竹千恵子　福島安史
福山透　宮崎収兄
村木央明
(高20回)　天野隆太郎　安藤進
伊与田あさ子　遠藤昇
大林市郎　小田英一
北野光敏　木村和明
桑田和典　坂本俊子
清水徹　関戸博高
辻村貴典　成田雅則
原田勝広　原田淑郎
深津純子　三浦美知子
矢吹清　山本良二
吉原誠
(高21回)　足立純一　阿知波茂樹
渥美忠男　生駒仁志
内山田邦夫　北沢昭
柴田芳孝　清水照雄
徳田登　戸田正人
早川久右衛門　兵藤幸治
前田真澄　丸川美雪
矢田金市　山田俊文
(高22回)　上田洋子　木下平
近藤純子　酒井真知子
鈴木龍雄　鈴木裕美子
棚橋みさ子　中村賢治
長谷川章雄　渡辺嘉一
(高23回)　天野隆司　畝部和則
小田利枝子　清水郁夫
成田宏史　野々山浩
本田隆広
(高24回)　柴田雅裕
(高25回)　明保治男　稲垣智子
岡田弥生　加納敏行
小林宏史　竹本仁之
田村英明　戸田譲三
戸田妙子
(高26回)　織田利彦　畔柳誠二
杉浦明夫　日高克
山口知子
(高27回)　天野俊康　臼井博哉
長田光雄　河原仁志
岸洋平　杉浦ひとみ
宮川龍也　山崎正枝
(高28回)　太田也寸志　三枝奈芳紀
酒井邦彦　長坂光司
日高和江　日高俊郎
藤井哲
(高29回)　海野寿美　嶋田薫
(高30回)　岡本和也　小洗健
西川英一　松井伸介
森川さとみ　米津智徳
(高31回)　石田満理　小林淳
杉浦章一　高原正之
野木村美紀
(高32回)　原えつ　村松幸子
(高33回)　犬塚昌良　内山静香
木村敦　小出一典
児矢野マリ　田中寿
八田耕太郎　松田かおり
山本守正　吉村裕美子
(高34回)　板谷敏正　井上由美子
岩崎陽子　神戸伸輔
国松佐和子　安田峯次
吉村玲子
(高35回)　石井敦　糸井真由美
小川美季　金澤傑
渋谷禎則　菅伸介
畑茂樹　古澤昌宏
(高36回)　塩山泰聖　鈴木貴之
平松理生
(高37回)　渡邉修
(高38回)　内田力　小田努
柴田哲良　杉江剛
桃井聖司
(高40回)　大田武
(高41回)　重徳和彦　中鉢朋子
松野恭子
(高42回)　秋本崇之　生田洋平
杉山崇　長野麻子
(高43回)　前田雄介
(高44回)　里元麻衣子　平形直人
松尾直樹
(高45回)　牧野充浩　吉戸勝
(高46回)　浅井太郎　大川博
(高47回)　小島義博　杉本いづみ
早崎宏　又木奈菜子
(高48回)　羽佐田泰弘　藤井晋也
(高50回)　鳥居福代
(高52回)　井上雄太　今泉勇
近藤佳子　清水雄太
林洋平
(高53回)　辻内直子　服部昌平
(高54回)　安藤康伸　加藤直也
(高57回)　川口敦子
(高58回)　石川航己　岩間亮
高松順
(高61回)　鈴木貴之　新見由佳
(高63回)　吉兼峻史
(高65回)　稲垣葉子
氏名不詳１名